

関釜裁判ニュース

1997年5月25日 発行

第20号

釜山「従軍慰安婦」
女子勤労挺身隊
公式謝罪等請求事件

戦後責任を問う
関釜裁判を支援する会

関釜裁判とは、一九九二年十二月二十五日以来三次にわたり、韓国釜山市などの元「従軍慰安婦」と元女子勤労挺身隊の十人が、山口地裁下関支部に、日本国の国会並びに国連総会での公式謝罪と賠償を求め、国を相手に提起した裁判である。

六・八福岡集会へのご参加を

憂う 藤岡氏、小林氏の言いたい放題

松岡澄子

◎福岡教育連盟 教育シンポジウム

「福岡県高等学校新教職員組合（第二組合）が今年四月一日から福岡教育連盟（FENE）に改めた記念教育シンポジウム「新しい歴史教育の創造へ向けて」が、四月二十九日福岡市天神、都久志会館で行われた。パネラーは、「新しい歴史教育をつくる会」の呼びかけ人の西尾幹二氏（電気通信大学教授）、藤岡信勝氏（東京大学教授）、小林よしのり氏（漫画家）、高橋史朗氏（明星大学教授）である。西日本新聞に「すべての子どもをわが子として」をスローガンに全面広告を載せ、参加を呼び掛けたので私たちも申し込みしたら抽選の結果、七名が参加できた。長崎から貸切バスできたり、熊本、大分、佐賀、北九州と北部九州全域

から集まった七百名の人達に、六月八日の（教科書からはずせんバイ！子どもたちに知らせたい「慰安婦」にされた女性たちのこと）集会のピラを、関釜裁判の原告たちを含めた十九人が会場前で渡した。

集会では「君が代」斉唱から始まり、主催者が壇上の「日の丸」に敬礼して話を始めるという異様なものだった。主催者の代表が「二十五年前、教師のストライキ、偏向教育、職場闘争から子どもたちを守るため、志ある教師二百名で組合を結成し、今や二千名の組合員に達した。構成員の十七パーセントが声を上げればその社会を変えていくことができる。すでに我々は福岡の高校教師の三十パーセントに達した。この集会に参加した七百名の皆様も含めて九州の教

育界を変えていこう」との挨拶で始まった。以下、シンポジウムの内容を要約すると、

◎高橋史朗氏 教科書記述の誤報事件

昭和五十七年の文部省の検定で侵略を進出に書き替えさせたという誤報が、中国、韓国の大反発を呼び、外交問題にまで発展したといういわゆる「誤報事件」があったが、「従軍慰安婦」問題はこれを巡るマスコミ報道の経過が全く同じパターンの繰り返しである。

◎藤岡信勝氏

「従軍慰安婦」の教科書記述問題

九十年六月、本岡昭次議員（日本社会党）が、「従軍慰安婦は強制連行されたという存在ではないか」と、予算委員会で質問したときから、「慰安婦」問題は強制連行問題であった。第一に九一年十二月に元「慰安婦」と自称する三人が日本国に対して謝罪と賠償を求

める裁判を提訴して被害者が登場する。第二に、「私の戦争犯罪―朝鮮人強制連行」の著者、吉田清治氏が「私こそが朝鮮半島からの女性狩りの下手人である」と、証言し、強制連行を行った加害者が名乗り出た。最後の仕上げに、日本政府が公式に「慰安婦」の強制連行を認めた。どのようなキャンペーンによって認められたかというところ、九二年一月十一日に慰安所に軍が関与していた資料が発見された、と朝日新聞が報道したことによって「軍は関与していない」業者が連れ歩いていったという政府の公的な見解が嘘だとされ、政府は当時隠していたんだと強く読者に印象付ける効果があった。宮沢首相の謝罪や河野談話へと発展していったのであるが、大規模の宣伝に対してマスコミの表面に表れるような形では、これに對する有効な反対言論が組織されなかったから、中学校の教科書にまで書き込まれるという屈辱的な事態に発展したと考えており、書き込むべきではなかったと私は思っている。

「慰安婦」強制連行説の崩壊

「慰安婦」の強制連行を証明するには、①文書資料、②加害者の証言、③目撃者の証言、④本人の証言、の四種類の証拠しかない。文書資料であるが強制連行の企画立案、指示、司令文書など膨大なものが必要であるが、ただの一件も発見されていない。石

原信雄元官房副長官によれば全く文献的な根拠なしに、十六人の韓国政府が用意した「慰安婦」の証言だけで強制連行を認めたのが実態である。証拠能力としては断然おちる以下の三点であるが、唯一の加害者証言であった吉田清治氏の内容は、斉州島の現地調査で全くの作り話であることが証明され、本人もフィクションだと認めている。目撃証人も一人としてでてこない。「慰安婦」本人の証言であるが、裁判を起こすのだからそれなりに確実性があるということだろうが、秦先生の分析によれば、すべて親に売られたケースである。親から十分に事情を聞かされず、どういう仕事をさせられるかもわからないで連れていかれた方の運命に同情はするが、戦争中不幸な目にあった人が多い中で、「慰安婦」の人にだけ特別な手立てをするのは不公平であり韓国政府も国内バランスを崩すことになるので、誠に消極的なのである。

◎小林よしのり氏

マスコミの体質

マスコミ報道

大学紛争の頃、左翼的な考え方に洗脳された四十歳から五十歳の人達が、今マスコミの一番重要なポストを占めている。アジアが弱者の絶対正義のキーワード（彼らはこれに非常に弱い）の一つであったり、彼らは被害者とか人権とか名乗ったら勝ちと

いう風潮の中で、朝鮮人、中国人、アジアの人々を絶対正義にしなければならぬという感覚をもっている。自分の立場の中にある差別心や、うしろめたさを反転させて、徹底的に被害者を美化し、めろめろと寄り掛かって支援してしまふ。そうすれば自分が正義だと思える。

日本軍は官僚制 ベクトルは何？

日本軍は官僚制であり、印鑑を捺して紙が回っていかなければ、動かないようになっていた。例えば「副官より北方方面及中支派遣軍参謀長宛通牒案」を朝日新聞は「軍が関与した」という資料としているが慰安所を設置するとき内地で軍の名前をかたつて、非常に無理な募集をしている者がおるから取り締まれ、と書いてある。これは結局軍における官僚制の上からのベクトルである。官僚制は逆向きのベクトルの紙が出ることは絶対ないのだから、軍の意向は強制させまいとし、「慰安婦」の人権をなるべく守ろうとしたということが分かってしまった。しかし、向こう側は資料の自分にとってやばい箇所を省いて、誤解を受けやすい文書だけを断片的に出し、勝手な解釈を加えてだますやり方をしている。両論併記、おおいに結構。一般の人達を間違えなく信頼しているから。

謝罪は自分の誇りを売る。
アジアへの市場拡大、経済拡張、儲けの

ため、金のためにはとりあえず謝罪しておいたほうがよいという現実的な意見もあるが、これは結局自分の誇りを売ることになる。援助交際の少女は、金がほしくて体を売るといふが、本当に売っているものは誇りである。金のために自分の誇りなんか売ってもいいという今の日本の風潮の中で、誇りというものを大人が今から教えていくために、歴史教科書を作る会ができた。

◎西尾幹二氏

歴史教科書はどうあるべきか

日本人の意識、心理

資料もないのに強制連行を認めた河野談話の背景にある不透明な部分は、外国というものへの説明のできない日本人の意識、あるいは恐怖とも言える、外国を是とし、自らを否とする、ある種の日本人特有の病理学的心理ではないだろうか。

しかし、日本は何をしたらよいのか。反撃することである。そうではないと総力をあげて言うことが必要である。「慰安婦」問題でも同じで、「慰安婦」に補償するならばアメリカに操を売ってしまった戦後の日本人慰安婦への補償を要求すべきである。(慰安婦だと名乗り出た日本人はいない。そんなにプライドのない日本は絶対ない)問題はすべて相互、平等、国際的相互平等制でいくべきでアメリカ司法省による十六

人の入国拒否に対しても、政府は直ちに反撃を加え、原爆に携わったアメリカ人技術者等の日本入国を禁止すべきである。

「慰安婦」問題と北朝鮮

質問用紙への回答で藤岡氏は、韓国で「慰安婦」問題をやっている人は、北朝鮮の思想に共鳴しあるいは組織的なつながりをもって北の国益に叶う形でやっているのだから、北朝鮮が崩壊するまでは止めない。北朝鮮は金王朝の持続のために、日本から「慰安婦」問題で金をしこたま請求するつもりでいる、と述べた。この発言を韓国において事実無根と知る金文淑さんは発言を求めたが拒否された。

以上がシンポジウムの内容である。

集会の最後に「新しい歴史教科書をつくる会」への参加が呼びかけられた。北部九州に同会の地方支部を結成し、福岡県教育連盟に改名したことで小・中学校教師、親にも広げ、植民地支配や侵略戦争も否定したナショナルリズムを煽る歴史教科書を活用する受け皿を作っていくこうとするのがこの集会の真のねらいではないかと推察された。

◎6・8集会に御参加を!

参加していたのは多くが教師であろう。パネラー四人の言いたい放題の内容に空恐ろしさを感じた。辛うじて文字による質問はあったが、討論は拒否され一方的なとら

え方で、自分たちの都合のよいように処理されてしまった。君が代を歌い、日の丸に敬礼するというこの集会のバックボーンがパネラーの言論を自由奔放なものにしたばかりか、拍手と会場からの発言(小林よしのり氏の自分も漫画家としての自由を奪われマン奴隷だと言ったことに対して性の問題は別だ、と叫んだ)に対して、帰れ、黙れの野次が飛ぶ雰囲気は一体何なのか。教育はどこへ行こうとしているのか。日本の歴史的事実をご都合主義に歪曲して、国際社会に通用すると思っているのか。被害者の痛み、悲しみを軍靴で再び踏み潰すものである。勇を鼓して歴史の証人として名乗り出た被害者たちの名誉を二重にも三重にも傷つけるものでしかない。

私達は女性の人権侵害として、国の責任と賠償を認めさせていく説得力を持たなければと痛感させられた。

六月八日の集会では、日本の負の歴史も直視する中で間違いを正していくことが求められている。賢明な市民のかたがたに何が真実であるかを知ってもらい、その上で何を成すべきなのかを考えていただきたいと希望している。



第十八回口頭弁論

四月二十八日の第十八回口頭弁論は、杉山とみさんの証人尋問であった。

杉山とみさんは、戦前、慶尚北道立の達城(タルソン)国民学校の先生で、関釜裁判の原告の一人、朴S Oさんの恩師だった人である。S Oさんたちが小学校の四年生のとき、彼女たちの担任として杉山さんは初めて教壇に立った。その頃S Oさんはおかっぱ髪の可愛い女の子だったと、杉山先生は今でも覚えていいる。その後、S Oさんが挺身隊に行った事を知ったが、それ以来杉山先生はS Oさんと別れたきりで、日本に引き上げて以来、ずっと富山に住んでおられた。ところが四年前、知人から「下関で裁判を起こした人の(S Oさんのこと)訴状の中に先生の名前が出ている」と知らされ、支援する会の事務局を通して連絡をとることが出来るようになった。

一九九三年四月十七日、福岡で開催される「関釜裁判を支援する会」の結成集会上に朴S Oさんも来日することを知って、杉山先生は夜行バスで福岡に駆けつけ、空港で二人は涙を流して抱き合った。四十九年振りの再会だった。

それから四年後、杉山先生の証人尋問の申請がやっと取り上げられて、第十八回口頭弁論の日を迎えた。原告団からは、不二越富山工場に行った、朴S Oさん、柳Tさん、朴S Jさん、それに釜山挺対協の金文淑会長が来日して、原告席についた。

法廷が開かれて、驚いたことに、裁判長が替わっていた。実は、前回の口頭弁論の際、中渡衛裁判長は「一九九八年三月末日をもって裁判長の人事交替が予想されるので、それ迄に自分の手で判決文を書きたい。ついでに、九七年九月頃結審とし、九八年三月頃判決としたい。」と述べていた筈だったのに。

だが、ともかく、証人尋問はスムーズに進み、杉山さんのできるだけ客観的にわかりやすく語ろうとする緊張感が法廷内にピンピンと伝わった。

現在行われている戦後補償裁判で当時関係した日本人の証言は初めてという事だ。報告集会で、杉山さんは「戦後、自分は文化における戦争犯罪者だと思ひ、二度と教職につかないつもりだった。戦後の教員不足の中で意に反して復職してからもずっと心に残っていて、日韓親善のお手伝いをしてきた」と語られた。戦争責任をずっと自分に問うてこられたことと、教え子(朴

さん)に対する深い思いで、この日裁判の証言台にたれたのだと思つた。

非常に感動的な証言だったのに、傍聴席が満席にならずいくつか空席があったのは残念なことだった。残り少ない裁判だ。悔いのないよう傍聴席の熱気で支えて下さいますようお願いする。

次回口頭弁論は六月十六日(月)午後四時、結審は九月二十九日午後一時十五分と決定した。次回最終準備書面を提出し、その時に常岡せつこさんの証人採用の可否が決まる。決まれば、結審の前にもう一度口頭弁論が入る。

裁判のあと、下関バプテスト教会で報告集会が行われ、山本弁護士は「学校の先生が生徒を勧誘したとの証言は重い」と語り、裁判長の変更について「裁判所間の人事交替は確かに来年三月末だが、今回は裁判所内での人事交替があったらしい。前の裁判長は、所内の他の部署にいる筈だ。今日の裁判長は近下秀明という人だ。裁判長が交替しても、陪席判事は替わっていないので、判決文は書けると思う。」と説明された。

(入江清弘)



証人尋問要旨

★杉山さんについて。

杉山さんは、大正一〇年七月二五日生まれ。韓国全羅南道に生まれ、二歳程まで過す。大邱市に移り、公立女学校を卒業。

京城女子師範学校を卒業して、昭和一六年（一九四一年）四月に慶尚北道立（公立）

達城（タルソン）国民学校の先生になった。

両親は富山県出身。杉山さん自身は、富山へ終戦で初めて行った。

Q.（山本弁護士）達城国民学校で原告の朴SO（パクSO）さんを担任しましたか？

A. はい。初勤務の昭和一六年四月から一年間。その時、SOさんは四年生でした。

Q. そのクラスは何人でしたか。

A. 六〇名でした。女子四六名、男子一四名でした。

Q. 生徒だったSOさんの印象は？

A. 短におかっぱ頭の目のくりっとしたかわい子でした。

Q. 達城国民学校の生徒は、朝鮮人だけでしたか？

A. はい。日本人は「内地人」と呼んでい

ました。内地人は内地人だけの学校でした。

Q. 学校の先生は日本人と朝鮮人のどちらでしたか？

A. 両方混じっていました。

Q. 先生は公務員でしたか？

A. はい。道庁（慶尚北道）から任命された公務員でした。

Q. 退職したのはいつでしたか。

A. 終戦の時です。終戦で書類を焼却整理して、日本人は内地へ引き揚げました。

Q. あなたの公務員の身分はどうなりましたか。

A. 続けていました。勤めた人もいました。私はすぐには勤めませんでした。

Q. 退職の手続きはどのようにしましたか。

A. 自分からは申し込みませんでした。朝鮮総督府残務整理事務所から通知「勅命により自然退職」が来ました。残務整理事務所は東京にあって、その通知の後百円ほど送ってきました。

Q. 朝鮮で先生をしていた人はそのまま日本で先生をできたということですね。

A. はい。

★皇民化教育。

Q. あなたが朝鮮で先生をしていたころ、皇民化教育が行われていましたが、達城国民学校でもそうでしたか。

A. 盛んだったようです。女性教師も戦闘帽を被っていました。戦闘帽は、校外に出る時や教練（軍隊式の行進や訓練）をする時に被っていました。

Q. 他に、どんな教育がなされていましたか。

A. 「ここが日本であること、皆が日本人であること」の意識を生徒に知らせるために、「皇國臣民の誓いの言葉」。「われらは皇國臣民なり。忠誓以て君國に報ぜん。」を毎日の朝礼で生徒に唱えさせました。式典や集会でも、声をそろえて唱えさせました。皇民として終生もって軍國に、天皇に忠義を尽くしますというのが、その内容でした。また、「海ゆかば」。「海ゆかば水漬く屍、山ゆかば草むす屍、大君に刃にこそ死なめ、返り見はせじ。」も生徒に毎朝歌わせました。職員朝礼では教員たちも、「大君の御楯とならむ」と毎朝歌い、「子供たちとともに、皇民として歩もう。」という意識を持っていました。

Q. 学芸会のような時に特別なことをしましたか。

A. 「ここが日本であること、皆が日本人であること」の意識を生徒に知らせるために、「皇國臣民の誓いの言葉」。「われらは皇國臣民なり。忠誓以て君國に報ぜん。」を毎日の朝礼で生徒に唱えさせました。式典や集会でも、声をそろえて唱えさせました。皇民として終生もって軍國に、天皇に忠義を尽くしますというのが、その内容でした。また、「海ゆかば」。「海ゆかば水漬く屍、山ゆかば草むす屍、大君に刃にこそ死なめ、返り見はせじ。」も生徒に毎朝歌わせました。職員朝礼では教員たちも、「大君の御楯とならむ」と毎朝歌い、「子供たちとともに、皇民として歩もう。」という意識を持っていました。

Q. 学芸会のような時に特別なことをしましたか。

A. 「ここが日本であること、皆が日本人であること」の意識を生徒に知らせるために、「皇國臣民の誓いの言葉」。「われらは皇國臣民なり。忠誓以て君國に報ぜん。」を毎日の朝礼で生徒に唱えさせました。式典や集会でも、声をそろえて唱えさせました。皇民として終生もって軍國に、天皇に忠義を尽くしますというのが、その内容でした。また、「海ゆかば」。「海ゆかば水漬く屍、山ゆかば草むす屍、大君に刃にこそ死なめ、返り見はせじ。」も生徒に毎朝歌わせました。職員朝礼では教員たちも、「大君の御楯とならむ」と毎朝歌い、「子供たちとともに、皇民として歩もう。」という意識を持っていました。

Q. 学芸会のような時に特別なことをしましたか。

A. 「ここが日本であること、皆が日本人であること」の意識を生徒に知らせるために、「皇國臣民の誓いの言葉」。「われらは皇國臣民なり。忠誓以て君國に報ぜん。」を毎日の朝礼で生徒に唱えさせました。式典や集会でも、声をそろえて唱えさせました。皇民として終生もって軍國に、天皇に忠義を尽くしますというのが、その内容でした。また、「海ゆかば」。「海ゆかば水漬く屍、山ゆかば草むす屍、大君に刃にこそ死なめ、返り見はせじ。」も生徒に毎朝歌わせました。職員朝礼では教員たちも、「大君の御楯とならむ」と毎朝歌い、「子供たちとともに、皇民として歩もう。」という意識を持っていました。

したか？

A. 戦意高揚ということで、大楠公の物語（楠正成の天皇への忠義を誓う物語）を劇の中に取り入れたりしました。踊や歌で戦意を高揚させました。

Q. 生徒たちを連れて神社に参拝したことがありますか。

A. 近くの達城公園に神社があり、先生が引率して全校生徒を毎月参拝させました。夏休みは「早起き会」があつて、早朝に神社に行くことを奨励しました。

Q. 生徒が朝鮮語を使うことはできましたか。

A. 一切禁止。校内に一步入ると厳禁でした。

Q. もし違反するとどうなりましたか。

A. 体罰が公然となされていました。木刀の上に正座させる、などです。

Q. 入学したての子は、日本語を全然話せないが、どうしていたのですか？

A. 入学したての子は、日本語を一言も知らないわけです。自分の名前の日本語読みも知りません。今も入学式の光景は忘れられません。入学式の当日だけは、朝鮮語読みで、新入生の名前を先生が読み上げ、新入生は、母親と前に出てくると、学校が用意した名札をその場で縫いつけられました。

名札は漢字で書いてありました。創氏改名で、姓も名前も日本式、姓だけ日本式、元の朝鮮名を日本式に呼んだ名前など、ばらばらに入り交じっていました。

Q. 授業は全て日本語ですか？

A. はい。私の初任は四年生で、次年は一年生の男子でした。生徒（特に一年生）も先生も大きな苦勞でした。

Q. それでは授業は成り立たないが、どうしていましたか。

A. 日本語をオウム返しに言わせて教えました。

Q. あなたの勤めた年から始まった戦争をどのように教えていましたか？

A. 前線では兵隊が苦勞しているから、私たちは我慢しなければならぬ、私たちの苦勞は小さいもので、すべては国のために、忠義を尽くせと繰り返し教え込みました。

Q. 子供の反抗はありましたか？

A. 先生は力において絶対なので、表立ってはありませんでした。しかし、理不尽な思いは子供たちの心の中では渦巻いていたと思います。例えば、四年生を受け持っていたとき、子供たちの間で、通りがかりに足を出してひっかけたのは、遊びがあり、「（足をひっかけたのは）ドイツだ？」、「イーターだ。」と言いつけていました。

「イーター」は朝鮮語で「この足」という意味で、当時は面白いしゃれだと思つて私も笑っていました。けれども、隠語のような形でないと自分の国の言葉を使えなかつた生徒たちに対して、今は申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

★ 女子勤勞挺身隊への勧誘。

Q. 女子勤勞挺身隊の募集について知っていましたか。

A. 昭和一九年の一月から三月まで、京城女子師範学校の本科研究生として行っていました。大邸に帰ってきたのが四月で、よく知りませんでした。

男性の年配の先生が、卒業生の所を回つて勧誘していると聞きました。主にその年に卒業生を出した担任の先生でした。

Q. SOさんの担任は、モリヤ先生でしたが、このモリヤ先生も卒業生を訪問・勧誘していたのですか？

A. はい。

Q. モリヤ先生と女子勤勞挺身隊の話はしましたか。

A. 職員会議では話題にならず、陰のお話として聞きました。それで、モリヤ先生に「遠い雪国に一人でやるのはひどいのではないか。」と言つたら、「映画を観たら、

図書館・食べ物・病院があつて、心配いらない。」と言われました。

Q. 子供たちは映画を観せられたのですか。

A. 分かりませんが、多分、見せられたと思います。

Q. モリヤ先生はどういう人でしたか。

A. 真面目で正義感の強い人でした。

Q. 生徒からもそのように思われていたか？

A. はい。信頼されてきました。

Q. モリヤ先生が、S.O.さんを誘ったのはいつですか？

A. 四月でした。うわさを聞きました。

Q. S.O.さんが勤労挺身隊に行くことを、あなたはいつ聞きましたか？

A. S.O.さんが行ってしまつてから聞きました。

Q. 達城国民学校から勤労挺身隊として行ったのは何人でしたか。

A. 私の知っている限りでは、さん一人です。行き先が「フジコシ」であるというところも知っていました。

Q. 杉山先生から励ましの手紙をもらったとS.O.さんは言っていますが？

A. 記憶に無いのですが、出したのだと思います。

★ 終戦から再会。

Q. 敗戦の少し前にS.O.さんは帰りましたが、それを知っていましたか。

A. 同僚や生徒が家に遊びに来ますので、帰っているという噂は聞いていました。なぜ帰ってきたのか、病気が逃亡かと、大変心配しました。本当のわけを聞きたいと思

いました。しかし、生徒から「S.O.さんに会いに行つても、会ってもらえなかつたので、先生が行つても、会ってもらえないだろう。」と聞いたので、そのまま、気にしながら富山に引き揚げました。

Q. 消息が分かつたのは、いつですか？

A. この関釜裁判が始まるというときです。

Q. それまではS.O.さんに対して何か知っていましたか。

A. 富山の韓日親善友の会・日韓親善協会の人達と二〇回ほど韓国へいくたびに、同級生にS.O.さんの消息を尋ねていましたが、誰一人知りませんでした。「亡くなったのでは？」という話もありました。

Q. なぜ、S.O.さんはずっと交流を絶っていたのですか？

A. 女子挺身隊に行つたということがマイナスイメージとなっていました。挺身隊に行つたということが内緒でないと、結婚できない人もいました。一二歳の幼い時に勧

誘された時の話と、飢えと過酷な労働とい

う現実との落差に、本人は、裏切られたと思

い、深く傷ついたことでしょう。何十年もそのままで、その子にとっては人生の大

きな傷として消えることがなかつたし、友達にも言えなかつたのです。

Q. 挺身隊であつたことを隠さないと結婚できないのはなぜですか？

A. 日本人の感覚をはるかに超えた、女性の貞操を重んじる儒教精神が韓国社会には

あります。挺身隊と従軍「慰安婦」の境が

はっきりせず、その積もりもできないまま、本人は口を閉ざし、周りの想像が広がって

いったのではないのでしょうか。社会から白眼視され、さぞかし肩身の狭い人生を過ごしたのだらうと思います。

Q. 原告と再び出会つたのはどういうきっかけですか。

A. わたしは、本籍が富山で、S.O.さんはこのことを知っていました。友人にも会いたくないほど本人が傷ついているので、わたしも言いませんでした。ただ、S.O.さん

への支援の思いから富山の不二越に対する裁判に関わっていました。その、裁判を支援している（富山強制連行訴訟を支援する

会）人から連絡を受けました。こちらの裁判の陳述書の中に「杉山とみという先生か

ら励ましの手紙をもらった。」という内容のあることをその人から聴きました。

Q. すぐ連絡しましたか。

A. 国のためにということと教育したおわびの手紙を書きましたが、返事が来ませんでした。私を恨んでいると悩んでいました。次に電話したときに、手紙の着いていないことがわかりました。その時平成五年四月に福岡で会おうと話をしました。

その後、訪韓の度にホテルに会いに来てくれました。大郎にも行きました。

「昨年、はじめて同窓会に出て、交流を絶っていた皆に会いました。」

★ 「先生」の戦争責任

Q. 原告が挺身隊に行ったということについて、どう思いますか。

A. 先生の下に「様」をつけて呼ぶほど、韓国は、先生に対する尊敬の非常に強い国です。先生の言うことを、生徒は全面的に信頼し受け入れます。「先生のおっしゃる言葉に間違いは無いから、モリヤ先生の勧めに従った。」と、C.O.さんはわたしに訴えました。勧められることは大丈夫という思いがあったのです。

Q. そういう感情を利用したと考えられますか？

A. はい。勧誘の窓口で先生を持ってきたのは、大変有利でした。教師への尊敬の念を利用して勧誘したのです。

Q. 日本人の子供に対しての勧誘はあったのですか。

A. 大邱市に日本人の学校は四校ありましたが、全然聞いたことが無いです。

Q. 朝鮮人だけに勧誘があったのですか？

A. はい。

Q. (山崎弁護士) モリヤという人の漢字は？名前は分かれますか。

A. 「守屋」です。名前は「しげいち」だったような気がします。

Q. 役職は？

A. ないです。中堅どころでした。

Q. 何人もの先生が勧誘していたのですか？

A. わたしは新米だったので、よく分かりません。公に耳にすることはなかったです。ただ、守屋先生一人というわけではないです。

Q. 学校の仕事として家を訪問していたのですか？

A. そうでした。学校からの命令だったと思います。個人で動くことは考えられませんが、具体的にとどのような命令・指令があったのかは知らないです。

Q. 学校(上)の命令は絶対でしたか？

A. はい。

Q. 「挺身隊」に対するイメージは？

A. 国に尽くすというイメージがありました。

Q. 例えば、今の日本での自衛隊や警察に入るというような認識ですか？

A. はい。名誉なことであり、国のため立派なことをするということです。

反対尋問無し。

(まとめ 三輪淳一)



▶(右)杉山とひさん、(左)朴S.O.さん



原告 滞在記

(東京都・栗林佐知)



◆「歌いなさい」

どこかで聞いた曲だ。懐かしいような……
「あーそれ、パンソリでしょう」

と花房さんが言うとしじさんはうなづいた。
映画『風の丘を越えて〜西便制〜』で聞いて、ずっと耳の奥に残っているメロディ。
「歌って、歌って！」

木の食卓を囲んでみんなでいうと、しじさんはいやなこったという感じで首を振って「続きは知らない」といった。そして盛んに歌うのが、淡谷のり子とか藤山一郎とか古い日本のブルースや、勇ましい戦争の歌。

はりのある声がどこまでも伸びる。〈花房さん〉に備え付けの「日本歌謡全集」(2)を広げて金文淑さんも杉山先生も声を合わせる。しじさんはなんと、何も見ないで二番三番まですら歌う。次々「新曲」がとびだす。いったい何曲知っているんだ。まさに人間CD、いやCDに入っているのはいせいで十数曲だから、人間有線ってところか。おもむろにしじさんは隣を向いて言った。「花房さん、歌いなさい」
かくして、一人一曲ずつ歌ってゆくという

恐ろしいゲームが始まった。文淑さん、杉山先生と順番は回って、
「はい、恵美子さん、歌いなさい」
「えーだめだめ、恵美子さんは無芸大食」
そうか、無芸大食と言えればいいのだな。
と私は安心した。

順番の間に、いろんなおしゃべりが入る。
しじさんはサブトンを、一昔前の駅弁売りのように抱えて、「もーちー、もーちー、ぶんかばーん、ぶんかばーん」と実演してみんなを喜ばせた。そういう食べ物売りが夜中に街を流して、食欲を誘ったというおはなし。ぶんかパンとはどういうものか杉山先生が教えてくれた(のだけど、疲労のため頭の壊れていた私はよく覚えていない)
原告の皆さんの草餅やいろんなキムチや豆や、あさりスパゲティを食べた後なのに、ふとしじさんが法廷で「杉山先生の生徒が書いて送ってくれたパンの絵を見たらよけいお腹がすいた」と話されたのを思い出し、空腹の切なさを感じてしまった。
なんだかんだと恵美子さんも歌わされてしまう。次は、スパゲティのあとに黙々と七杯のご飯を食べている三輪青年。これぞまさしく無芸大食、だろうから、しめしめこれでゲームもおしまいだ。と思ったら、
「サントウキ、トウキヤ〜」

と、三輪青年は、お遊戯まで付けて歌い出した。しじさん、しじさん、文淑さん、なんと杉山先生まで、頭の上とうさぎの耳なんかつくって踊りだすではないか！
と、いうことは次は私。ひたすら知らん顔。が、ただならぬ視線を真横から感じた。

「はい、なにしてる、あなた、歌いなさい。
ほら、よこはまー、歌いなさい」
ブルースの化身と化したしじさんが、あごをしゃくっていた。

次の日、みんな美術館へ行った。
「この次先生に会えるのいつかねー」
歩きながらしじさんが、杉山先生にいった。
間の会話は聞こえなかったけれど、
「あなたのような才能のある方がねえ」と先生がしみじみおっしゃっていた。
もっとしじさんに歌ってもらいたかった。

◆がんばろう

「しじさん、杉山先生はどんな先生だった」と花房さんが聴くと、しじさんはなんだか俯いてしまい、先生がすかさず引き取って、「厳しかったわよねえ」と自己申告した。
しじさんはうなづいた。授業はそんなのばかりだったのか、農園の草むしりとかそんな思い出ばかりだ。先生はお嬢様だったの

で雑巾掛けもしたことがなくて、生徒たちのほうがずっと「甲斐性があった」とか。「私、SOは裕福なうちの子だと思ってたわ。だってそういう子は少なかったのに、この子セーラー服着てたもの」
ぼつんと当人がいう。

「そう、私、お姉さんと先生のお店（トミヤ帽子店）に赤い帽子買いに行ったよ、そんなの買う人いなかった」

少女時代のSOさんがふいに映画の回想シーンのように浮かんで来た。女学校へ行くつもりで不二越へ行って働かされて、帰ったらほかの子はみんな女学校へ行ってた。ゼッタイ悔しい！と、私はたぶん初めてこの日、思い至った。

SOさんは病気が治ったばかりで、半分の手足がまだ良く動かなくて、ご飯を食べるのもしんどそうだった。

もちろん全然意味は違うけれど、私も親許を離れて富山で暮らしたのだとマヌケな自己紹介をしたら、ふうと息をついて、「韓国はそういうのあまりないよ、私（のクラスで）一人だけだったよ」といった。そうして手を出され、握手してくれた。

「がんばろう」と言って手を離されてから、「死ぬまでネ」そう言って目をそらした。SOさんは一足先に休むときも、なんだ

かまわりを気にしてすまなそうに二階上がったっていかれた。

◆黄色い帽子のTさん

Tさんは、みんなが歌って騒いでいるときはずっと寝ていて、後から起きられてご飯を食べた。そしてまた知らないうちに風のようにいなくなっていた。

朝ふとんの中からネボケまなこを上げたら、Tさんがお散歩に出ていくところだった。朝食前、みんな洗面したりしてうるうるしているときもさっさと一人、雑巾掛けをしていた。

新緑の美しい公園を散歩しながら、みんな美術館へ行った。Tさんは黄色い帽子をかぶってバッチリお散歩装備している。次は公園に行こうとか帰るとか、みんながモメているときも、Tさんは「いさかい」の渦中から離れてにこにこしている。どうしたらこんなにひょうひょうとした人になれるのかなあと思う。

Tさんとはあんまり話せなかったなあ。思っていたら、話しかけてくださった。

「子どもさんは」と聞かれたので

「まだいないんです」といったら、

「はあ、困りましたねー。多いところは多くて困るのにねー」とふわふわといわれた。



▲左から栗林佐知さん、柳Tさん、杉山ヒメさん、村SOさん、村SUさん、金文淑さん、平前は花房美子さん

◆コバヤシ

「花房さん、どうしてこの人たちが甘やかすの。この人たちの運動なんだから、駄目よ！ もう！」と文淑さんが怒られた。

「ゴ宣言」を読んだらうさんも「いくよ。悔しいよ！」。

それで見んなで都久志会館へピラまきに行くことになった。

都久志会館の前。通りの向こうをふんぞりかえった小林よしのりが、美女（後ろ姿）を従えてゆく。「あれがカナモリかなー」。

うしさんはこのとき見逃してしまったので、ピラを配りながら、眼鏡をかけた男性が通ると、「あれ、コバヤシ？」と聞く。

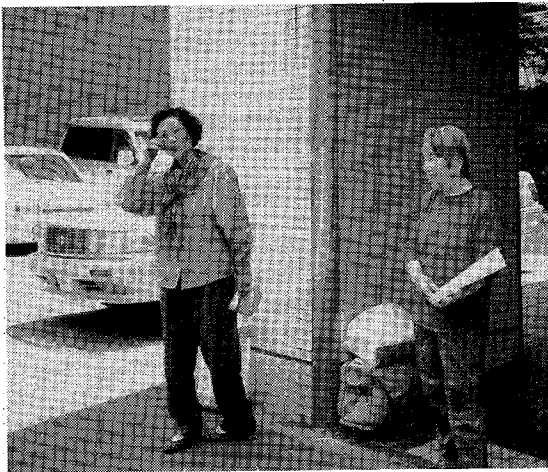
「コバヤシを見てかなきゃね」という。そう言うてからやおら、

「これ配ると、コバヤシ怒る？」。

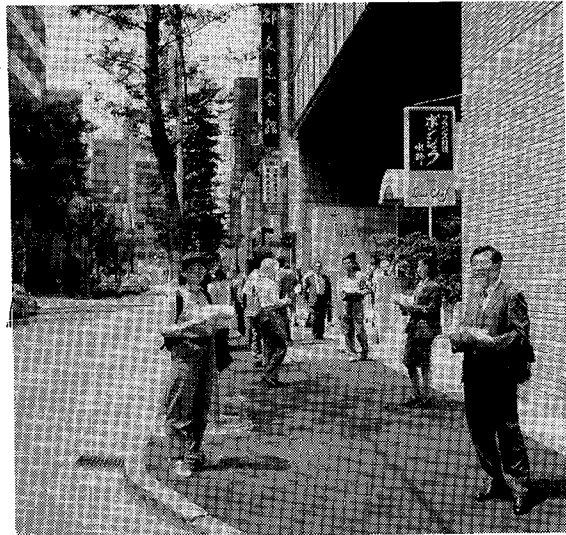
実は心配なんだけど、「だいジョブです」と私は答えた。通行の人は結構ピラをもらってくれる。でも、無視する人も多い。

「お願いします、言うのに知らん顔するよ。韓国でもそういう人ある。しつれいね。やってみるとわかるよ」

そう言ううしさんは、あつという間に手持ちのピラを配り終えてしまった。



▲ピラ手配の様子
(都久志会館の前で)



教科書からはせんバイ！

「子どもたちに知らせたい」「慰安婦」にされた女性たちのこと！

講師 上杉聡
西野瑠美子

特別ゲスト 李貴粉
金文淑

日時 6月8日(日)
13時半〜16時半

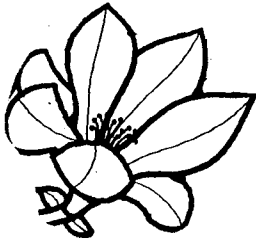
会場 都久志会館(中央区天神)

主催 6.8 福岡集会実行委員会

主催

この集会では「慰安婦」問題の真実を事実に沿って明らかにしながら、教科書攻撃への批判と、今回のようないきさつな起きで起きているのか、その社会的背景にも踏みこんで明らかにしたいと思っております。
是非とも参加して下さい。慰安婦問題の解決と歴史教育のありようを考えて下さい。





裁判を傍聴しましょう

第19回口頭弁論

97年6月16日(月)
午後4時より

次の口頭弁論は、最終準備書面の提出と、常岡せつこさんの証言の採否です。裁判長も替わって、皆がこれ程注目しているということを知ってもらうためにも、是非、大勢の傍聴をお願いします。

多数の傍聴を
お願いします。

負 負 負

なお、傍聴のための抽選整理券は、1時間前より配られます。早めにお越しください。

山口地裁下関支部

下関市上田中町8-2-2

0832-22-4076

JR山陽本線下関駅から北浦線(または東駅を通るバス)山之口下車

自動車の場合は棕野(むくの)トンネル付近で尋ねること

福岡の人は車で一緒に行きましょう。

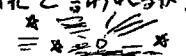
集合場所:九州キリスト教会館

集合時間:午後1時30分

関釜裁判を支援する会・活動日誌(19)

1997年

- 4月6日 「新しい歴史教科書をつくる会」を批判する第3回研究会
- 8日 「慰安婦」問題を教科書からはげさせない!6・8福岡集会)準備会
- 15日 6・8集会第1回実行委員会(16名参加)第46回定例会
- 27日 裁判前日、証人の杉山とみさん、原告たちを囲んで交流会
- 28日 第18回口頭弁論(杉山とみさん証言)
- 29日 福岡教育連盟主催のシンポジウム「歴史教育の創造にむけて」に6・8集会のピラ入れ(原告を含め19名参加)
- 5月6日 6・8集会第2回実行委員会(17名参加)
- 11日 「新しい歴史教科書をつくる会」を批判する第4回研究会(基礎編終了)
- 18-19日 関釜裁判ニュース編集作業
- 19日 6・8集会第3回実行委員会(14名)第47回定例会
- 25日 ニュース発送作業

明^き もう見えなくなったが、毎日夕方になると、
大^お 北西の空に、ハルイボリア彗星をさが
が^が すのが楽しかった。(南区からだと
や^や 百道の上空に見えた)古来、ほうき星
く^く は凶兆と言われるが、果たして...!
(17)  (15)

関釜裁判ニュース 20号

1997年5月25日発行

編集作業人 松岡澄子 花房俊雄
井上由美 佐京剛志
佐京拓子 花房恵美子

発行

戦後責任を問う関釜裁判を支援する会

代表 松岡澄子・入江清弘

会費 年間 3000円
郵便振替 01740-0-47678
口座名 関釜裁判を支援する会

おれ

1996年3月31日付で、「民間基金」に反対する毎日新聞意見広告の会計は、189,245円の借金が残っていましたが、各集会での講師謝礼収入等で、全額返済いたしました。賛同して下さった多くの皆様にお礼申し上げます。